

平成 29 年度 学校 評価 自己 評価 報告 (幼稚園)

幼稚園名 [ 京丹後市立峰山幼稚園 ]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)	
<p>“笑顔でつなごう。みんなのてとで!!” 一はなそう・つたえよう・みんなのおもいー</p> <p>(1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p>		<p>○幼児が主体的に遊ぶことができるように登園後、すぐに活動ができるように環境を整えることができた。 ○一人一人が安心安定した生活ができるよう保護者との連携を持ち、関係機関との連携も行い、話し合いや研修を重ねることができた。 ○保幼からの小中一貫教育を進める中で話し合いを通して連携を持つことができた。 △保護者・地域に開かれた園として信頼関係に努める。 △職員間の報告・連絡・相談の徹底と研修を深める。</p>		<p>(1)幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2)自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3)幼児の実態や発達に合わせて支援し、共に育ち合う集団をつくる。 (4)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (5)峰山学園(保幼から小中一貫教育)の連携を進める。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策			
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<p>○『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1)意欲を持って自ら学ぶ子ども(知) ・友だちとかがわりながら遊びや生活を発展する。 (2)思いやりのある子ども(徳) ・あいさつをする。 ・保育者や友だちと話をする。 (3)進んで心と体を鍛える子ども(体) ・保育者や友だちといろいろな運動遊びに挑戦する。</p>	<p>(1) 峰山学園経営会議を通して子ども達の実態から課題点を見つけ、共通の目標を持つ。(ことば力・聞く力・話す力)からのコミュニケーション能力を育てる) (2) 中学校との連携 ・福祉体験での交流・参観交流 (3) 小学校との連携 ・発表会(生活・音楽)鑑賞・連絡会・運動会見学 ・散歩・体験入学・保育参観と研修会 ・小1スタートカリキュラムの考察検討・ (4) 保育所との連携 ・保育交流・5歳児交流会・担任会・保護者会交流 (5) 高校生との連携・花の種植えと交流</p>			
教育課程	<p>○幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。</p>	<p>○園周辺が田園で、四季に合わせていろいろな風景が見られ、感動をことばにしたり表現活動を通して様々な変化を楽しんだり五感を通して経験したりすることで豊かな感性を養うことができた。 ○『朝の第一歩は挨拶から』を子ども達・保護者に伝えることで生活習慣やことばを意識することができるようになってきた。</p>			

			<p>挨拶のトーンから感じられる個々の状況を受け止めることで丁寧な対応を行うことができた。</p> <p>○保育者がいろいろな場で認めの声掛けを行うことで、子ども達の表情がとても明るく安定した園生活が進んでいった。</p> <p>○ひとつひとつの活動が細切れにならないよう年間の目標や各年齢・クラスの発達段階を担当が理解し、実態に合った環境や個へのかかわりを行うことで集団としての行動ができた。</p> <p>○いろいろな活動で楽しかったこと困ったことなどを自分のことばで話すことを繰り返し経験することで人に認めてもらうことの嬉しさや心の中からの楽しさを感じることで、自信を持って生活や活動を進めるようになった。</p> <p>△『育ちの基本である遊びを通して』を系統立て、乳児保育から環境を学び合う。</p>
	<p>○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。</p> <p>○自分の思いや考えを表現したり行動できる力を養う。</p> <p>○日常的に園内外の安全指導・安全対策に留意する。</p>	<p>(2) あいさつ運動:元気に挨拶を交わし一日を始める。</p> <p>(3) 登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。</p> <p>(4) 活動に合わせ、話し合いの時間や場を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を知り、友だちの良さに気づける生活や遊びを進める。</li> <li>・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。</li> </ul> <p>(5) 散歩や集団登降園などで交通ルール・集団でのルールを共に考え知らせる。また、保護者会で交通安全全・危機管理について学び合う。</p>	<p>○園や家庭の状況を伝え合う時間や場を設定し、共通のかかわりを進め子ども達に寄り添うことができた。</p> <p>△懇談会や講演会などを通して子育ての楽しさを伝えていく。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。</p>	<p>(1) 子育て相談 (随時) (4) 預かり保育</p> <p>(2) 園庭開放(毎週金曜日)</p> <p>(3) 園開放 (月2回) (6) 一時預かり制度の利用</p>	<p>○五箇保育所との統合に向けて保護者会と連携を持ち、親子行事や園児同士の交流を計画的に進めることができた。</p> <p>○日々の活動内容を友だちや先生と相談しながら進めることで時間を意識するようになり、生活のリズムが取れてきた。</p> <p>△個々の状況を把握し、集団として様々な経験ができるように保護者や地域のひととの連携をさらに進める。</p>
家庭・地域との連携	<p>○自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる</p> <p>○人とのかかわりの中でことばの使い方・必要性や大切さに気づき楽しむ。</p>	<p>(1) 登園時間を9時までとし、集団生活や活動の楽しさを知らせる。</p> <p>(2) 園での様子をたよりなどで発信し、保護者や地域の方と共に教育保育を進めていく。</p> <p>(3) 保護者・地域・社会人講師を迎えて様々な体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせ・野菜の苗植と定植・稲作り</li> <li>・琴の演奏に合わせたの読み聞かせ・運動あそび</li> <li>・防災訓練・交通教室・ALTとの交流</li> </ul>	
次年度に向けた改善の方向性	<p>○自ら進んで挨拶ができるようにする。</p> <p>○思いや考えを年齢なりのことばで伝える。</p> <p>○人の話を聞く態度を身につける。</p>	<p>○個々の発達を把握し、それぞれに合った保護者対応を進める。</p> <p>○0～5歳児までの発達や教育保育の捉え方を研修する。</p> <p>○職員間の報告・連絡・相談の徹底</p>	

平成29年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [ 京丹後市立大宮幼稚園 ]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)	
<p>“笑顔と元気でつながる仲間!!” ～かんじて かんがえ ぐんぐんのぼさう 心の根～</p> <p>(1) 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育む。 (2) 身近な生活に主体的に関わり、言葉によるコミュニケーションを育む。</p>		<p>○自分の言葉で思いや考えを表現し、人の話を聞く態度が身につけてきている。 ○身近な物(教材・廃材)で工夫したり発想するなど自ら考え、主体的に遊ぶようになった。 ○異年齢での活動により関わりも増え、優しさや思いやりの気持ちが出来てきた。 △園での様子や活動内容を保護者に知らせる工夫、話をする時間の確保が必要である。 △職員間の報告・連絡・相談の徹底と子どもの発達と教育・保育の研修を重ねる。</p>		<p>(1) 体験的な活動の場を取り入れ、主体的で協同的な活動を引き出す環境構成に努める。また、遊びの体験を通して豊かな感性を養う。 (2) 自らの健康や生活に関心を持ち、生活習慣の基礎を培う。 (3) 家庭との連携や保護者同士のつながりを深め、安心して子育てができるように支援する。 (4) 大宮学園(小中一貫教育)の連携を図り、円滑な接続ができるよう交流や研修を進める。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
<p>小中一貫教育の推進 (保幼小接続)</p>	<p>○大宮学園 経営計画に基づき取り組みを進める。 ○保幼小・小学校との連携を密にし、円滑な接続を図る。</p>	<p>(1) 経営会議を通して子ども達の実態を把握し、共通の目標をもつ。(ことばの力・思いやる心・つながる力の育成) (2) 小学校との連携 ・体験入学や運動会、マラソン大会見学、生活発表会の鑑賞やアプローチャプログラム、小1スタートカリキュラムの検討を行い、小1プログラムの解消を図る。 (3) 中学校との連携 ・地震津波合同訓練や体育祭りハーフサル見学、福祉体験を通じ交流を深める。 (4) 保育所との連携 ・担任会や参観交流、5歳児交流会を行い、スムーズな接続の推進を図る。 (5) 地域・家庭との連携 ・家庭教育委員会による「家庭のやくそく」を保護者と共に取り組み、子ども達の健全な育成を進める。</p>	<p>○経営会議で共通の目的を持ち、『ことばの力』を中心に環境を整え、教育保育を進めていくことで、年齢に合った発達を促すことができるよう努めた。 ○25日『ここにこの日』をふれあい給食の日として同じ気持ちで取り組むことができた。また異年齢の交流も深まるきっかけとなった。 ○異校種交流を行う中で、園児が生活や学びの見通しを持つたり、懂れの気持ちが出来たりするなど、心を豊かにすることができた。 ○スタートカリキュラムの検討など、担任会に参加し交流することと同じ目標を共有し、スムーズな接続に繋がるよう努めた。 △公開授業や公開保育を利用し、職員の研修や交流を通して学び、連携を深め円滑な接続に努める。</p>		

教育課程	<p>○幼児自らが環境に関わり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。</p> <p>○自分の思いや考えを表現したり行動したりする力を養う。</p> <p>○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。</p> <p>○園内外の安全指導・安全対策に留意する。</p>	<p>(1) 園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 (園内) ・砂、泥遊び・水、プール遊び ・園内の草木・野菜作り・クッキング活動 ・虫捕り・小動物の飼育 (園外) ・遠足：天の橋立・地域の神社 ・散歩：花畑・神社・農道を歩く・蓬摘み ・田植え、稲刈り、泥遊び</p> <p>(2) 挨拶運動：玄関で元気に挨拶を交わし、一日を始める。</p> <p>(3) 登園時間など子どもたちの実態を把握し、個々に合った助言、指導を行う。</p> <p>(4) 活動にあわせ、話し合いの場を持つ。 ・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。</p> <p>(5) 散歩や集団活動などで交通ルール・集団でのルールを共に考え知らせる。</p> <p>(6) 異年齢での交流を深める。</p> <p>(7) 地域の高齢者との交流や高校生との交流(花の苗植え)を通して親しみの気持ちをもつ。</p>	<p>○園外保育を通して自然にかかわり、発見や感動体験をし、豊かな心、感性の育成につながった。</p> <p>○田植えや稲刈り・クッキング活動等を通して、食への関心や感謝の気持ちを育むことができた。</p> <p>○保育者や子ども達が玄関で登園を迎え、挨拶を交わすことで挨拶の習慣は身につけてきているが、今後は自分から進んで挨拶できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>○△交通指導や防火訓練により自分の命を守ることや規範意識へとつながることができたが、引き続き園児・保護者にルールや決まりを守ることの大切さを繰り返し指導していく。</p> <p>○豊かな人間関係を築けるように、異年齢活動や小中学校・福祉施設等の交流を進めていく中で、優しい言葉使いや思いやりの心を育むことができた。</p> <p>△園生活の中での様々な経験を通して、言葉を紹介したコミュニケーション能力を育む。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援を充実させる。</p> <p>○家庭と連携し、教育力の向上を図る。</p>	<p>・子育て支援センターや一時預かり制度の利用</p> <p>・子育て相談の充実や園開放・園庭開放により、保護者同士の交流を深める。</p> <p>・園便りやクラス便り、懇談会、生活点検表の実施を通して、子どもの様子を発信する。</p> <p>・保護者会活動を通して互いに学びあう。</p>	<p>○園庭開放により、普段の子ども達の様子を感じてもらえることができた。</p> <p>○△園や家庭での様子を便りやホームページ、送迎時や電話連絡等で伝え合うことができるよう努めた。しかし、不十分な点も多く、より丁寧な伝え方や情報発信の方法を考え実践していく。</p>
研修 (職員の資 質向上)	<p>○園内研修の充実</p> <p>○職員の資質向上</p>	<p>・年間研修計画に基づいて、指導力の向上を目指した研修や事例研究に取り組む。</p> <p>・特別支援教育について研修を深め、職員間で共通理解をする。</p> <p>・初任者研修を通して、職員が一緒に学ぶ機会を持ち、資質の向上を図る。</p> <p>・PDCAサイクルを活用する。</p>	<p>○短い時間でも話し合いの場をもち、日々の教育保育について意見交流ができた。</p> <p>○外部研修後の復命を行うことにより、学びを深めたり意識向上につながりやすくなった。</p> <p>△更に外部研修への参加や園内研修の実施に努め、幼児理解や職員の資質向上に努める。</p>
次年度に 向けた 改善の 方向性	<p>○大宮学園の目指す子ども像の育成に努め、保小中と連携し、教育保育の質の向上を図る。</p> <p>○日常における園での活動や様子を家庭や地域に情報発信する。</p> <p>○認定子ども園教育・保育要領を熟知し、0歳～5歳児までの発達を捉え、一人一人の育ちに合わせた援助や環境構成に努める。</p> <p>○特別支援教育について、個々の実態を的確に把握し、保護者や関係機関との連携を図り、支援の充実に努める。</p> <p>○報告・連絡・相談を徹底し、職員間の連携を深め、また園内研修等の実施に努め、職員の資質向上を図る。</p>		

平成29年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立網野幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)	
(1) 幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。	(2) 自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。	(3) 幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。	(4) 常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。	(5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。	『どきどき わくわく きらっ!』 ～友達とともに夢中になって遊び込む子どもをめざして～  ・楽しい幼稚園生活を過ごす ・主体的な活動をくり広げる ・人とつながり合うことの喜びを味わう
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>『網野学園』のめざす子ども像をもとに、学園の基本方針を理解しながら取組を進める。</li> <li>幼児と児童の交流の機会や、教師同士の研修の場を重視し、相互理解を深める。</li> <li>学園のアプローチプログラムに園の独自性を加え、就学前に育ませたい力を明確化し、実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーフレットを活用したり、小中一貫教育に関する会議や研修などに積極的に参加したりして、全職員で共通理解する。</li> <li>運動会やマラソン大会、学習発表会などの学校行事を見学させてもらったり、園行事にも参加依頼をしたりするなどして、交流が深まるようにする。</li> <li>幼児の実態把握をしながら、新幼稚園教育要領の小学校との接続に関する事項を理解し、活用しやすいプログラムになるよう検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○△『小中一貫教育』の研修会には必ず参加し、児童生徒の現状や課題などを把握しながら、幼児期に大切にすべきこと等を園にもち帰り、全職員で考える機会にすることができた。しかし、公開授業については園行事等と重なり、参加しにくかった。</li> <li>○ 幼稚園の運動会に小学生が参加したり、マラソン大会を見学させてもらったりするなど、行事に係る交流ができた。中でも学習発表会については、それ以降にもつながる互恵性ある交流になった。</li> <li>○△新幼稚園教育要領については、少しずつ共通理解する場をもっていき、次年度へ向けてのマネジメントは今後の課題である。</li> </ul>		

教育課程	『どきどき わくわく きらっ!』 ～友達とともに夢中になって 遊び込む子どもをめざして～ ・楽しい幼稚園生活が過ごせるよ ににする。 ・主体的な活動をくり広げられるよ うな環境づくりをする。 ・人とつながり合うことの喜びを味 わえるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の幼児と心をつなぎ、個々が安定でき る幼稚園生活を創造する。</li> <li>・自らが健康や生活に関心を持ち、リズムある生 活が習慣になることを意識させる。</li> <li>・集団でなければできないこと、大勢ですると楽 しいことに気付かせ、他人に関心をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児一人一人のよさや頑張りなどを認めること で、担任だけではなくどの職員からも『包み込ま れているという感覚』になるよう努めた。</li> <li>○ 登園の様子を見守ったり挨拶を交わしたりする 等、常に保護者と近い距離でいることで幼児にと って「楽しい幼稚園」につなげることができた。</li> <li>○△運動会をはじめ、幼児の主体性を重視した様々な 活動を通して「友達と一緒にすることが楽しい。」 という気持ちが高まったが、要支援児の中には、 友達と繋ぐことが課題になる幼児もいる。</li> </ul>
子 育 て 支 援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園開放により、就園前の親子の保 育参加を行い、子育ての安定を図 る。</li> <li>・園日より、クラス日より、懇談会 等で保護者に幼児の様子を知ら せ、家庭と連携し、『子育て』をめ ざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回園開放『なかよしスクール』を開催する。 園児と交流したり、楽しく遊べる雰囲気や環境 を設定したりする。</li> <li>・『子育て講演会』を開催し、子育てに関すること を考えたり振り返ったりする場とする。</li> <li>・保護者の話や相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問 題解決に向けて進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園開放では、毎回参加し、子育てに係るアドバイ ザー的な存在になって、保育者としての専門的ス キルを発揮できることもあった。</li> <li>○ 『子育て講演会』では父親の参加が多く、父親目 線での子育て意識を高める機会になったのではな いかと思う。</li> <li>○ 日々、幼児や保護者の様子などを担任と共有して いるので、いつでも保護者連携はできる体制にあ る。また、クラス日よりや学期ごとの『まとめの 会』で園での様子を理解してもらっていると感じ る。</li> </ul>
研 修 （ 職 員 の 資 質 向 上 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育の本質を理解しながら、 今後の幼児教育を推進していける ような人材の育成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月案や週案などで、日々の具体的な実践例をあ げて環境構成や教師の援助の在り方などを探っ ていく。</li> <li>・エピソード研修や理論学習、ワークシヨップな ど様々な園内研修をする中で、質の高い教育の 在り方を研鑽する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○△月案や週案・反省をしっかりと把握しながら、ク ラス運営についての確認や幼児期の教育の中で大 切にしたいことなどを職員間で共有するようにし ているが、加配との意識の差が大きな課題である。</li> <li>○△エピソード研修をする時に、新教育要領に係る演 習や内容の確認を盛り込みながら、徐々に研修を 進めてきている。次年度に向けて、さらに実践的 指導ができるよう、カリキュラムに反映させたい。</li> </ul>
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育要領を指導計画に反映させ、「3つの資質能力」や「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」等が実践に活かされているかを明確化、言語化、可視化できるよう園内研修を進めたい。（園内でのつなぎや5歳児から小学校1年生への接続をさらに意識した教育活動の推進）</li> <li>・要支援児については、教育支援計画を軸にして全職員が共通理解しながら、よりよい支援を探っていきたい。</li> <li>・京丹後市唯一の単独幼稚園最後の年なので、その特色を存分に活かした教育活動を園内だけにとどまらず、PTA や地域も巻き込みながら進めたい。</li> </ul>		

平成29年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立丹後幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)	
<p>一人一人が生き生きと活動し、 「楽しんで広がれ！つなげられ！みんなえがお！」をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。</p>		<p>・幼児期に育てたい力の基本的な生活習慣、人の話を聞く、自分の思いを伝える、人を思いやる心、やさしさ、元気な体は遊びの中から日常的にまた意識的に育んでいきたい。そのためには生き生きとした生活で、心わくわくする環境構成を常に考えていかなければならないと考える。 ・挨拶運動は丹後学園の「こちゃんハッピーデー」とあわせて引き続き取り組んでいきたいと思う。しかし、挨拶もマンネリ化せず且つ受動的にならず、自主的に声が出せるよう配慮していかなければならないと考える。 ・「言葉の力」を意識し、保育全般に子どももの自主性を引き出す工夫をしていかなければならない。</p>		<p>台言葉「えがおがさきから たんごのわ ～えがおであつたかは一とをつなげよう～」 ・様々な活動を通して人と人とのつながり、いたわりやさしさ、思いやりを育み、心豊かな人間性、社会性をもつた幼児を育成する。 ・聞く力や話す力が身に付くよう、計画的に取り組み、自分の思いを言葉で表現するなど言葉の力の向上を図る。 ・保護者や地域との連携、また、保幼小中連携を深め、様々な体験や活動を積極的に取り入れ、たくましく健やかな体と心をもつた幼児の育成に努める。</p>	
<p>評価項目 小中一貫 教育の推 進 (保幼小 接続)</p>	<p>重点目標 ・『丹後学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき、取り組みを進める。 ・保幼小中の連携を密にし、スムーズな接続を図る。</p>	<p>具体的方策 ・『丹後学園』小中一貫教育に関する諸会議や公開授業等に参加し内容を全職員で確認する。 ・保幼小連絡会を設け、参観・懇談をする中で早い段階で課題などを見つけて就学に向けてスムーズな接続につなげる。 ・学校行事の見学や体験入学等により、子ども達の就学に対する意欲や憧れをもたせる。 ・近隣にある丹後中学校との合同避難訓練等の連携も引き続き行う。</p>	<p>成果と課題(自己評価) ○丹後学園の会議、研修に出席し学園の取り組み内容を職員会議で報告し、中学生の姿から幼児期に必要な力を職員間で話し合うことが出来た。 ○△小学校との連絡会や学園接続部会で子ども達の様子を参観してもらい遊びが学びにつながっていることを理解してもらった。今後も幼児教育について理解してもらえよう参観内容についても考えていく。 ○小学校体験入学では、小学校の先生と内容について緻密に連絡し合ったことで、給食体験もあり子ども達の不安が解消され、入学がますます楽しみとなるよう取り組みができた。 ○丹後学園の『「こちゃんハッピーデー」の取り組みを通して、丹後中学校の3年生の生徒と一緒に挨拶運動が出来たことは、子ども達がいつもより自ら進んで挨拶できるよい機会となった。</p>		

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの体験を通して心身ともにたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ幼児を育成する。</li> <li>遊びを通していたわりややさしさ、思いやりの心を育む。</li> <li>言葉の力の向上</li> <li>人の話を聞く、自分の思いを伝えることができる力を養う。</li> <li>自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を使った遊び(体操・リズム運動・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等)を積極的にとり入れる。</li> <li>小動物の飼育、栽培物の世話を一緒に行う。</li> <li>異年齢活動(チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等)を通して年少児へのいたわりの気持ちをもったり、年長児に対して憧れの気持ちをもったりできる環境設定を考える。</li> <li>絵本や物語などに親しむことで、言葉の力を豊かにする。</li> <li>教師が幼児の話にしっかりと耳を傾ける。</li> </ul>	<p>○年間通して体を使った遊びに取り組み、体力づくりができた。特に5歳児は竹馬、雲梯、大縄とびなど取り組む中で、あきらめず根気よく挑戦する姿が多くみられ、出来た喜びが様々な意欲につながっていた。異年齢の子ども達には憧れの存在として、目標となる姿となった。</p> <p>○異年齢活動はいたわりや思いやりの気持ちを育てる重要な活動であった。今後も続けていきたい。</p> <p>○△教師が一人一人の子どもの話や気持ちをゆっくり聞くことを意識してかかわり、情緒の安定から聞く態度を養うよう努めた。しかし、心が落ち着かず一方的に話をすることが、人の話を聞けない子どもも多い。今後子どもと信頼関係を築くことから言葉力の向上にむけ取り組みたい。</p>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。</li> <li>支援を要する幼児に対しての支援策を園全体で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ママのおしゃべり会など子育てについての悩みなどを出し合える場をつくる。</li> <li>子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。</li> <li>子育て講演会への参加をよびかける。</li> <li>預かり保育、一時預かり保育制度の活用</li> <li>支援を要する幼児に対して保健師や他機関とも連携をとり園全体で支援していく。</li> </ul>	<p>△町内の出生率が低くなってきていることに加え、低年齢での入園が多い為、子育て支援センターの利用者数は少ない。</p> <p>△子育て講演会では多くの方に参加してもらえよう、チラシや連絡網で呼びかけたが少なかつた。夜出にくいことや仕事で参加しにくい状況もあるため、時期や時間は今後も検討が必要である。</p> <p>○要支援児について保健師と連携を密にとり、園児の様子にあわせて他機関に繋がったり、療育につなげたりすることができた。</p>
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培を通して地域の方々から様々なことを学ぶ。</li> <li>園の様子や活動などを地域の方々を知ってもらう。</li> <li>園だよりやクラスだより、また家庭訪問や懇談会などにより、家庭と連携し家庭の教育力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業従事者の方々から栽培についての話をしていた</li> <li>だき、親子で一緒に栽培について考える機会を設けたり、自分たちで育てていく楽しみを味わった</li> <li>りできる体験を覚えていきたきながら、一緒に進めていく。</li> <li>園内外で保護者の方や地域の方に挨拶をする『挨拶運動』などの取り組みも進めていく。</li> <li>保護者の話や相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向けて進めていく。</li> </ul>	<p>○地元『百姓一揆』グループの方々とのつながりが定着しており、今年度も「畑の先生」として様々な栽培活動に協力していただいた。栽培活動を通して、観察力、収穫の喜び、手間や苦労、食への関心などを高めることができた。</p> <p>△園だよりや家庭訪問、懇談会などを通して園や子どもたちの様子を理解してもらおうように努めたが、伝わりにくい部分もあった。</p> <p>○ホームページを活用した。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>幼児期に育てたい基本的生活習慣、人の話を聞く、自分の思いを言葉で伝える、人を思いやる心、やさしさ、元気な体は、遊びの中から日常的にまた意識的に育んでいきたい。また、丹後学園の指導重点に挙げる『コミュニケーション能力の育成』について、職員間で共通理解し教師との信頼関係の中で幼児期に必要な力をつける。身近な人や地域の伝承文化を大切に、自然体験や感動体験を多く取り入れ地元愛を育んでいきたい。</p>		





教育課程	<p>○心の教育を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番活動、飼育栽培活動、異年齢活動等を通して、思いやりや心や自尊感情を育むための体験活動、指導の充実を図る。</li> <li>・人権意識、豊かな感性を育むため、園生活の中で触れる悲しみ、喜び、温かさ等、人の心を豊かに感じる場面を共有する機会を大切にしている指導の充実を図る。</li> </ul>	<p>○心の教育を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当番・生き物飼育・野菜栽培・異年齢活動等を充実させ、思いやりや心や自尊感情を育むことに努めた。</li> <li>○園生活の中で触れる喜び、悲しみ、温かさ等、人の心を感じる場面を共有する機会や地区サロン訪問などを通して、豊かな感性や人権意識の醸成に努めた。</li> </ul> <p>△さらに、豊かに関わりあう活動の充実を図る。</p>	<p>○年間を通して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会（PTA）」等により、子育て支援や家庭の教育力の向上を目指して、発信や連携を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○園庭開放、日常的な子育て相談、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図ることができた。</li> <li>△バス通所、多様な降園時刻への降園対応により、保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対して、各種たより、電話による家庭連絡など工夫を行ってきたが、さらに懇談会、参観等、効果的な子育て支援の工夫を図る。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発達年齢に応じた家庭教育目標について、計画的に発信し、家庭の教育力を向上させる。</li> <li>○保護者の子育て不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができるように、子育て支援を充実させる。</li> </ul>	<p>○各家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に関わる家庭教育指標を、園・担任より「たより」「子育て相談」「懇談会」「保護者会（PTA）」等を通して発信し、年齢相応の生きる力の育成を図るための子育て支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的な子育て相談の場、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流・研修の場を工夫し、子育て支援を充実させる。</li> <li>○保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対し、より効果的な子育て支援のための情報連携の工夫を図る。</li> <li>○発達特性、個々成長課題等に付いて、個に応じた、丁寧な子育て支援の充実を図る。</li> </ul>	<p>○年間を通して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会（PTA）」等により、子育て支援や家庭の教育力の向上を目指して、発信や連携を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○園庭開放、日常的な子育て相談、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図ることができた。</li> <li>△バス通所、多様な降園時刻への降園対応により、保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対して、各種たより、電話による家庭連絡など工夫を行ってきたが、さらに懇談会、参観等、効果的な子育て支援の工夫を図る。</li> </ul>
家庭地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園開設3年目に当たり、さらに園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実させる。</li> <li>○地域の環境・人材を活用し、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。</li> </ul>	<p>○3保育所の保護者会から引き継いだ、弥栄こども園の特色ある保護者会活動を充実させ、さらに園と家庭・保護者同士の連携を密にし、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めたいという組織運営・活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○弥栄こども園ならではの園周辺自然環境・施設を活用した園外教育活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図る。</li> <li>○園だより、クラスたより、HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、園からの丁寧な発信や連携の工夫を行い、効果的・効果的に家庭・地域との連携の充実を図る。</li> </ul>	<p>○弥栄こども園と家庭、保護者同士を融合させ、連携を密にし、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めていくための保護者会組織運営・活動を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○弥栄こども園ならではの周辺環境（野間川・田んぼ・農道・畑等）・施設（社会体育館周辺・弥栄小運動場等）を活用した園外教育活動・地域連携活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図ることができた。</li> <li>○園からの丁寧な発信により、「弥栄こども園」の教育活動への理解を広げ、家庭・地域との連携の充実を促した。</li> <li>△保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対して、さらに、各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な連携の工夫を図る。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。</li> <li>○保幼小の効果的接続を目指し、アプローチャプログラムによる教育活動、幼小連携教育活動・共同研修の充実を図る。</li> <li>○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同するための日常の教育活動・異年齢活動の充実を図る。</li> <li>○計画的に事例研修・公開保育等園内研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図るとともに、幼保連携型認定こども園教育・保育要領への対応を図る。</li> <li>○さらに、各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。</li> </ul>	<p>○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保幼小の効果的接続を目指し、アプローチャプログラムによる教育活動、幼小連携教育活動・共同研修の充実を図る。</li> <li>○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同するための日常の教育活動・異年齢活動の充実を図る。</li> <li>○計画的に事例研修・公開保育等園内研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図るとともに、幼保連携型認定こども園教育・保育要領への対応を図る。</li> <li>○さらに、各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。</li> </ul>	<p>○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保幼小の効果的接続を目指し、アプローチャプログラムによる教育活動、幼小連携教育活動・共同研修の充実を図る。</li> <li>○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同するための日常の教育活動・異年齢活動の充実を図る。</li> <li>○計画的に事例研修・公開保育等園内研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図るとともに、幼保連携型認定こども園教育・保育要領への対応を図る。</li> <li>○さらに、各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。</li> </ul>

平成29年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [ 京丹後市立かぶと山幼稚園 ]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)	
幼稚園教育目標「元氣な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元氣 勇気 笑顔 つながれ仲間》 ～友達とともに夢中になって遊び込む子どもをめざして～	○園外保育を通して自然環境に興味や関心をもった。また、園近隣の果樹畑道で散歩やマラソンをし、特に5歳児については就学に向けて体力を増進させることができた。 ○保幼小連携では、小学校プールでの「チャレンジプール」が、自信をつける良い機会となった。水が苦手な子どもも水に親しみをもてるようになった。 ○幼児理解と保護者との信頼関係作りに努めた。 △保小中と連携し、常に保育・教育の向上に努める。 △保護者に「幼児期に大切な親子のふれあい」や「生活習慣の大切さ」に気づいてもらい、幼児が情緒を安定させ、意欲的に活動していただけるよう取組を工夫する。 △挨拶をはじめ人と心を通わせる言語活動を充実させる。	○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができるよう環境構成に努める。 ○自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む。 ○協同的な遊びや生活を通してルールや他人を大切にすることを育てる。また、家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。 ○保幼小中連携を深める。 ○特別な配慮を必要とする幼児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。 ○子育て支援に努めると共に、家庭教育力向上を図る。	成果と課題(自己評価)	○「久美浜学園」研修会を通して小中の教師、保育所、保育園の保育士と一緒に学ぶ機会が持てた。 ○保幼小連携部会を通して、アプローチプログラムやスタートカリキュラムの見直しを行い、改善した。また、幼児や小学生の実態交流をしたり、新学習指導要領や新幼稚園教育要領、新保育指針等で大切にしたい取組を再確認したりした。 ○昨年度から行った小学校での「チャレンジプール」は、小学校のプールを知り、水に慣れ親しんで自信をつける良い活動になった。また、小学校の教師と交流する機会にもなり、子ども達は張り切り切ったり、打ち解けたりした。 ○普段から小学校へ行く機会を見つけ、職員全員で小学校を身近に感じるようにした。 ○年長児交流会で3園混合同のグループでかぶと山登山をしたことは、言葉がかけたり考えたり、一緒に目的に向かう良い体験だった。 △研修会への職員の参加体制を工夫する。	
評価項目 小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	重点目標 ○「久美浜学園」共通の「目指す子ども像」「教育目標」に向けて教育内容の相互理解を深め、一貫性のある指導を行う。 ○保育所・小学校と連携し、幼児一人一人の発達の連続性や学びの連続性を保障する。	具体的方策 (1) 久美浜学園を通して子どもの実態を交流し、共通の「目指す子ども像」や「教育目標」に向けて一貫性のある指導をしていく。 (2) 小学生や中学生との交流を行う。 (3) 小学校との連携 ・運動会見学・体験入学・授業体験・プール体験・学習発表会見学等 (4) 保幼小の連携 ・合同研修会・教師、保育士の交流・アプローチプログラムとスタートカリキュラムの評価と改善・入学までにつけた力と入学後に継続したい取組の明確化等	○「久美浜学園」研修会を通して小中の教師、保育所、保育園の保育士と一緒に学ぶ機会が持てた。 ○保幼小連携部会を通して、アプローチプログラムやスタートカリキュラムの見直しを行い、改善した。また、幼児や小学生の実態交流をしたり、新学習指導要領や新幼稚園教育要領、新保育指針等で大切にしたい取組を再確認したりした。 ○昨年度から行った小学校での「チャレンジプール」は、小学校のプールを知り、水に慣れ親しんで自信をつける良い活動になった。また、小学校の教師と交流する機会にもなり、子ども達は張り切り切ったり、打ち解けたりした。 ○普段から小学校へ行く機会を見つけ、職員全員で小学校を身近に感じるようにした。 ○年長児交流会で3園混合同のグループでかぶと山登山をしたことは、言葉がかけたり考えたり、一緒に目的に向かう良い体験だった。 △研修会への職員の参加体制を工夫する。		

教育課程	<p>○主体的・協同的に活動する力を育てる。</p> <p>○自己肯定感を育む。</p> <p>○自分の思いや考えを表現し、人とかかわる力を養う。</p> <p>○自らの健康やリズムある生活に関心を持ち、基本的な生活習慣や態度を身につける。</p> <p>○人権尊重・規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。</p>	<p>(1) 様々な体験や人との出会いの機会を設定する。</p> <p>○自然の中で、五感を豊かにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂、泥、土、粘土、水・草木、花、野菜等自然物</li> <li>・虫、魚、飼育物等 生き物</li> <li>・山、森、海、果樹畑、田んぼ、旧神野保育所園庭、神社、牧場、かぶと山公園、展望台等 環境</li> </ul> <p>○様々な行事参加や体験活動をする。</p> <p>○幼児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。</p> <p>○異年齢交流をする。</p> <p>(2) 感動体験の機会を設定したり、言葉で思いを発表する機会を設定したりする。</p> <p>(3) 挨拶を奨励する。</p> <p>(4) 絵本や物語に親しむ機会を設定する。</p> <p>(5) 自立心を育てるような機会の設定をする。</p>	<p>○特性を持った子どもも園で主体的に活動しようとするためににはどのような環境構成や教師の援助、関わりが必要か模索しながらの保育であった。クラス会議、学年会議で話し合うことで教師や保育士が共通理解し、同じ気持ちで関わる事ができた。チームワークが子どもの成長に繋がった。</p> <p>○5歳児が果樹畑コースをマラソンコースとして活用。マラソンを通して体力増進、持久力増進に繋がった。</p> <p>○「友達とともに夢中になって遊び込む子ども」を目指して環境や教師の関わりを工夫してきた。一人一人の自発性を大事にしなが、一人一人に寄り添った保育を心がけた。遊びを通して考えたり工夫したり、自分の思いを様々な方法で表現したりした。友達と一緒に遊びを進める面白さも体感していた。</p> <p>○地域の方の大きな支援を得て田んぼで米作りに関わる事ができた。田んぼでの泥んこ田植え、稲刈り体験、収穫米クッキング等が子どもの心を動かす素晴らしい活動だった。</p> <p>△落ち着いて話を聞く、挨拶をする子どもが増えたが、方策の工夫の必要性を感じる。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。</p> <p>○家庭の教育力向上を図る。</p>	<p>(1) こども園でおしゃべり会・子育て相談(随時・毎月)</p> <p>(2) 園開放・園庭開放</p> <p>(3) 預かり保育、一時預かり保育の活用</p> <p>(4) 支援センターの利用</p> <p>(5) 子育て講演会</p> <p>(6) 懇談会</p>	<p>○温かい雰囲気での子育ての応援ができるような園となるよう、職員一人一人が努めた。機会を逃さないよう担任や担当の教師、保育士が保護者と丁寧に関わって、一緒に子育てをしてきた。信頼関係も構築でき、子どもの健全な成長に繋がった。</p> <p>△「目を合わせて話を聞く」意識を向上させる。</p>
家庭・地域との連携	<p>○家庭地域との連携と子育て支援を行う。</p> <p>○保護者同士や保護者と地域がつながり、園と協力して「久美浜を支える人」育成の土台づくりを行う。</p>	<p>(1) 田植え体験・稲刈り体験ボランティア</p> <p>(2) 交通安全ボランティア</p> <p>(3) 絵本の読み聞かせボランティア</p> <p>(4) お茶会ボランティア</p> <p>(5) 保護者会の協力 等</p>	<p>○「5歳児お泊り保育」を保護者会本部役員や保護者、高学年スーパ等々に支援してもらった。自立心の芽生えを育んだ。</p> <p>○保護者の交通安全ボランティア等、保護者の協力が得られた成果は大きい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>・言葉の力の育成」「不登校解消」という目標を意識した具体的方策について考え、教育・保育をしていきたい。</p> <p>・保護者会と一緒に「挨拶する」「目を合わせて話を聞く」「共感体験をする」「安心・安全な環境を作る」取組をし、家庭教育力の向上を目指す。</p>		